

2021年7月8日

SUBARU AWD 車の累計生産台数 2,000 万台を達成

SUBARU は、2021 年 6 月末に AWD (All-Wheel Drive: 全輪駆動) 車の累計生産台数 2,000 万台*¹ を達成しました。1972 年 9 月に発売した国産初の乗用タイプ全輪駆動車「スバル レオーネ 4WD エステートバン」に搭載以来、49 年目での達成となります。

現在、SUBARU の世界販売台数に占める AWD 車の比率は 98%*² に上り、その全て*² が水平対向エンジンとの組み合わせによる、SUBARU 独自のシンメトリカル AWD です。

シンメトリカル AWD の最大の特徴は、縦置きに配置した水平対向エンジンを核として左右対称にレイアウトされたパワートレインで、水平対向エンジンのもたらす低重心とパワートレインの優れた重量バランスが AWD の安定性・走破性を最大限に引き出し、あらゆる天候・路面で優れた走行性能を発揮します。

SUBARU はこのハードウェアの強みに加え、「人を中心としたクルマづくり」の考え方のもと、クルマと乗員の一体感を高めるつくり込みを続け、高い次元での「安心と楽しさ」を実現してきました。

SUBARU の安全思想と走りの楽しさを支える中核技術としておよそ半世紀にわたって磨かれた AWD 性能は、電動車においても進化を続けています。

日本をはじめ世界各地域で展開する e-BOXER*³ 搭載車では、モーター駆動の応答性の高さを活かしたより緻密な AWD 制御により、雪上や氷上といった滑りやすい路面での安心感や、ラフロードなど悪路での走破性が更に高められました。

また、2022 年発売予定の SUV モデルの EV「ソルテラ」、2020 年代中盤に発売予定のストロングハイブリッド車においても、モーター駆動と AWD 制御の協調で SUBARU の AWD 性能は進化を続けます。

SUBARU は今後も、SUBARU 独自の既存コア技術を進化させるとともに、時代変化に応じた将来技術を養い、高めながら「SUBARU らしさ」を磨き続け、世界中のお客様へ「安心と楽しさ」を提供していきます。

【ご参考】「SUBARU らしさ」WEBサイト

<https://www.subaru.co.jp/difference/>

*1: シンメトリカル AWD 以外の AWD を含む。

*2: 2018~2020 年(暦年)販売実績ベース。他社からの OEM 供給車を除く。

*3: e-BOXER: 水平対向エンジンと電動技術を組み合わせた SUBARU 独自のパワーユニット。シンメトリカル AWD のレイアウトをベースに、コンパクトで高性能なモーターとリチウムイオンバッテリーを左右対称・一直線上に配置。(中国仕様ユニット名称は「INTELLIGENT BOXER」)